

第4章 現状・課題の整理

新那加駅周辺地区のバリアフリー上の主要な問題点や課題を以下に整理します。

課題1：市民の暮らしを支える拠点施設について、利便性の向上を図ることが求められます。

高齢化の進展や障がい者数の増加（H23：7,050人→H26：7,411人）を踏まえ、今後はより一層のバリアフリー化を図ることが必要です。新那加駅周辺地区では、郵便局や病院、銀行また食品スーパーといった生活に関連した施設が集積していますが、施設内の段差や手すりがない等のバリアフリー上の問題点がみられます。

市民にとって利用頻度の高い施設は、利用者の利便性の向上が求められ、これらの施設の重点的・一体的なバリアフリー化を推進することで、市民の暮らしを支える拠点としていく必要があります。

課題2：新那加駅を中心とした、集まりやすく、安全・安心して移動しやすいまちとすることが求められます。

アンケート調査やタウンウォッチング（まち歩き）の意見のなかで、多くの人が利用する新那加駅に対して、地下連絡通路を含め上下移動やトイレの使いやすさなど、移動の円滑性や利便性の支障となっている箇所への意見・要望が多く見られます。また、周辺の道路についても、段差や凹凸といった問題点も散見されます。

したがって、交通結節点として新那加駅を中心とし、バス、タクシー、駐車場等との接続の利便性を高め、誰もが集まりやすく、安全で安心して移動しやすいまちとしていくことが求められます。

課題3：施設等の機能を最大限に発揮するため、市民のバリアフリーに関する意識を高めていくことが求められます。

経路上への違法駐輪や、車いす利用者用駐車施設の健常者の利用などのマナー違反によって、バリアフリー化された施設がその機能を果たせていない状況もみられます。高齢者、障がい者等が移動しやすく利用しやすい駅や道路等の施設とするためには、施設の整備水準を高めるなどのハード施策に加え、市民、施設設置管理者、関係行政機関などのバリアフリーに対する意識を高めるソフト施策も必要不可欠です。

市民、施設設置管理者、関係行政機関などが一体となって協働のまちづくりを推進し、持続してバリアフリー化を図っていくことが重要です。